

官報

號外

昭和十六年二月十四日

第七十六回 衆議院議事速記録第十三號

帝國議會

昭和十六年二月十三日(木曜日)

午後一時十八分開議

議事日程 第十二號

昭和十六年二月十三日

午後一時開議

第一 輸出補償法中改正法律案(政府提出)

第二 昭和十二年法律第八十四號中改正法律案(支那專變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)(政府提出)

第三 國民貯蓄組合法案(政府提出)

第四 國民更生金庫法案(政府提出)

第五 日本勸業銀行法中改正法律案(政府提出)

第六 北海道拓殖銀行法中改正法律案(政府提出)

第七 農工銀行法中改正法律案(政府提出)

第八 人造石油製造事業法中改正法律案(政府提出)

第九 帝國燃料興業株式會社法中改正法律案(政府提出)

第十 東亞海運株式會社法案(政府提出)

第十一 郵便貯金法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第十二 昭和十二年法律第九十二號中改正法律案(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件)(政府提出)

第十三 商工會議所法第十四條ノ臨時特例ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)

第十四 健康保險法中改正法律案(政府提出)

第十五 報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案(支那專變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)

(第三號)昭和十五年年度特別會計歳入歳出豫算追加案

(特第二號)昭和十六年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

明治三十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

北海道拓殖銀行法中改正法律案

農工銀行法中改正法律案

人造石油製造事業法中改正法律案

帝國燃料興業株式會社法中改正法律案

東亞海運株式會社法案

(以上二月十日提出)

帝國石油株式會社法案

臨時陸軍材料資金特別會計法中改正法律案

昭和十五年法律第六十九號中改正法律案(支那專變ニ關スル一時賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル件)

委員會等ノ整理等ニ關スル法律案

農地開發法案

木材統制法案

(以上二月十二日提出)

一 去十日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案

左ノ如シ

郵便貯金法中改正法律案

一 昨十二日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案

陸軍軍法會議法中改正法律案

海軍軍法會議法中改正法律案

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

北海道生產擴充綜合計畫ニ關スル建議案

提出者

澤田 利吉君 山本 厚三君

松浦周太郎君 木下成太郎君

大島 寅吉君 板谷 順助君

松尾 孝之君 村上 元吉君

南雲 正朔君

軍需重要礦產物並山林開發ノ爲鐵道敷設ニ關スル調査會設置ニ關スル建議案

提出者

清水留三郎君 木檜三四郎君

官幣大社宗像神社社殿境域復興ニ關スル建議案

提出者

山崎達之輔君

臨屋義助公神位昇格ニ關スル建議案

提出者

熊谷五右衛門君 池田七郎兵衛君

齋藤 直橋君 添田敬一郎君

猪野毛利榮君 青木 精一君

木檜三四郎君 村上紋四郎君

(以上二月八日提出)

大楠神社創建ニ關スル建議案

提出者

增永 元也君 木村 正義君

(以上二月十一日提出)

一 昨十二日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

留萌鐵道株式會社及新瀉臨港開發株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

田名部運輸軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

富士身延鐵道株式會社及白棚鐵道株式會社所屬鐵道買收ニ關スル法律案

大正九年法律第五十六號中改正法律案(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)

軍機保護法中改正法律案

一 去八日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ

第五部選出

豫算委員 長野 長廣君(堤康次郎君補關)

一 去八日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

外國爲替管理法改正法律案(政府提出)委員

西村金三郎君 稻田 直道君

木村 淺七君 菊池 良一君

中田 儀直君 小笠原三九郎君

笠井 重治君 木村 正義君

清瀨規矩雄君 作田高太郎君

鈴木 英雄君 田中 邦治君

田原 春次君 武田徳三郎君
中島彌團次君 中原 謹司君
栗山 博君 森田 福市君
治安維持法改正法律案(政府提出)委員
服部 英明君 泉 國三郎君
眞鍋 勝君 松本 弘君

江原 三郎君 小畑虎之助君
田村 秀吉君 高見 之通君
中野 寅吉君 中村 高一君
永田 良吉君 西村 茂生君
長谷 長次君 濱野徹太郎君
一松 定吉君 藤田 若水君
松山常次郎君 三田村武夫君

蠶絲業統制法案(政府提出)委員
高橋熊次郎君 小山邦太郎君
高橋圓三郎君 最上 政三君
森 幸太郎君 飯田 助夫君
植原悦二郎君 小野 寅吉君
岡崎 憲君 加藤 知正君
北原阿智之助君 紅露 昭君
佐藤洋之助君 坂本宗太郎君
助川啓四郎君 鈴木 正吾君
野溝 勝君 平野 力三君
松岡 俊三君 松村 光三君
三善 信房君 宮澤 胤勇君
百瀬 渡君 山田 六郎君
山本 糸吉君 吉田 賢一君
渡邊玉三郎君

昭和十二年法律第九十號中改正法律案
(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)
委員
村上 國吉君 長野 綱良君
成島 勇君 松浦 伊平君
吉植 庄亮君 池田七郎兵衛君
石井徳久次君 石坂 繁君
小笠原八十美君 小串 清一君
大石 大君 岡田喜久治君
北 勝太郎君 北村 文衛君
小平 重吉君 坂下仙一郎君

須永 好君 鈴木 文治君
田中 邦治君 土田 莊助君
坪山 徳彌君 馬場 元治君
松田喜三郎君 三善 信房君
村上 元吉君 林 讓治君
渡邊 健君

一去八日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
健康保險法中改正法律案(政府提出)委員
辭任西村 茂生君 補關松尾 孝之君
辭任岡崎 憲君 補關西尾 末廣君
貸家組合法案(政府提出)外二件委員
辭任宮澤 裕君 補關廣川 弘禪君
昭和十二年法律第九十二號中改正法律案
(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル
件)(政府提出)委員
辭任横川重次君 補關稻田 直道君
一去十日近衛内閣總理大臣ヨリ左ノ通發令
アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ
在滿教務部長 岩松 五良

第七十六回帝國議會政府委員被仰付
大藏書記官 野田 卯一
第七十六回帝國議會大藏省所管事務政府
委員被仰付
司法書記官 太田 耐造
第七十六回帝國議會司法省所管事務政府
委員被仰付
保險院書記官 築 誠

第七十六回帝國議會厚生省所管事務政府
委員被仰付
一去十日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
外國爲替管理法改正法律案(政府提出)
委員
委員長 西村金三郎君
理事 稻田 直道君 木村 淺七君
菊池 良一君 中田 儀直君
治安維持法改正法律案(政府提出)委員
委員長 服部 英明君

理事 泉 國三郎君 眞鍋 勝君
松本 弘君 高橋熊次郎君
蠶絲業統制法案(政府提出)委員
委員長 高橋熊次郎君
理事 小山邦太郎君 高橋圓三郎君
最上 政三君 森 幸太郎君
昭和十二年法律第九十號中改正法律案
(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)
委員 村上 國吉君
委員長 村上 國吉君
理事 岡田喜久治君 成島 勇君
松浦 伊平君 吉植 庄亮君

一去十日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任
委員左ノ如シ
第七部選出豫算委員 小泉 純也君
一去十日特別委員理事補關選舉ノ結果左ノ
如シ
健康保險法中改正法律案(政府提出)委員
理事 川崎巳之太郎君(理事小野廉君
去十日委員辭任ニ付其ノ補關)
一去十日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
健康保險法中改正法律案(政府提出)委員
辭任小野 廉君 補關川崎巳之太郎君
辭任丸山辨三郎君 補關石坂 豐一君
治安維持法改正法律案(政府提出)委員
辭任松山常次郎君 補關猪野毛利榮君
辭任長谷 長次君 補關藤本 捨助君
昭和十二年法律第九十二號中改正法律案
(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル
件)(政府提出)委員
辭任藤本 捨助君 補關長谷 長次君
一昨十二日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常
任委員左ノ如シ
第八部選出豫算委員 前川 正一君
一昨十二日當任委員補關選舉ノ結果左ノ

如シ
第七部選出 平川松太郎君(小泉純也君
豫算委員 補關)
一昨十二日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如
シ
貸家組合法案(政府提出)外二件委員
辭任眞鍋 儀十君 補關清水留三郎君
辭任塚本 重藏君 補關杉山元治郎君
昭和十二年法律第九十號中改正法律案
(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)
委員 村上 國吉君
委員長 村上 國吉君
理事 岡田喜久治君 成島 勇君
松浦 伊平君 吉植 庄亮君

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマ
ス、御諮リ致シマス、第一部選出決算委員
池崎忠孝君、第四部選出決算委員河合義一
君、右常任委員辭任ノ申出ガアリマス、之
ヲ許可スルニ御異議アリマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ許可スルニ決シマシタ、其ノ部ノ
諸君ハ速カニ補關選舉ヲ行ヒ御届ケアラ
ンコトヲ望ミマス——日程第一、輸出補償法
中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——小
島商工次官

第一 輸出補償法中改正法律案(政府
提出) 第一讀會
輸出補償法中左ノ通改正ス
第一條中「政府ハ」ノ下ニ「命令ノ定ムル
所ニ依リ」ヲ加ヘ「百分ノ八十」ヲ「百分ノ

第一 輸出補償法中改正法律案(政府
提出) 第一讀會
輸出補償法中左ノ通改正ス
第一條中「政府ハ」ノ下ニ「命令ノ定ムル
所ニ依リ」ヲ加ヘ「百分ノ八十」ヲ「百分ノ

九十一「改ム

第三條第一項中「荷爲替手形ノ満期」ノ下ニ「(一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ手形ニ付テ特別ノ事情アル場合ニ於テハ主務大臣ノ定ムル別段ノ時期以下同ジ)」ヲ加ヘ同項第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 荷爲替手形ニ付附屬荷物アルトキハ其ノ處分ニ依リテ得タル金額ヨリ其ノ處分ノ爲支出シタル費用ヲ控除シタル殘額

第四條第一項中「逕求權其ノ他ノ手形上ノ權利」ヲ「逕求權以外ノ手形上ノ權利又ハ附屬荷物ニ對スル權利」ニ改ム

第五條 削除

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行前ニ銀行ガ買取りタル手形ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

(政府委員小島新一君登壇)

○政府委員(小島新一君) 只今議題ト相成リマシタ輸出補償法中改正法律案ノ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、申スマデモナク輸出貿易ノ積極的増進ヲ圖リマスコトハ刻下ノ急務デアリマス、而シテ是ガ對策ト致シマシテハ、幾多ノ方策ガ考ヘラレルノデアリマスガ、特ニ現下ノ國際情勢下ニ於キマシテハ、輸出業者ガ輸出貿易ニ對シ積極的氣分ヲ失フコトナク、安シク輸出ノ維持促進ヲ期スルコトガ出來マスルヤウ致シマスコトガ、最モ肝要ト存ズルノデアリマス、此ノ趣旨ニ鑑ミマシテ、既ニ昨年末以來現行法ノ許ス範圍内ニ於テ、運用ニ依リ保險的ニ補償ヲ致シテ居ルノデアリマスガ、更ニ輸出補償法ヲ改正シ、從來實施シテ參リマシタ金融上ノ便宜ヲ附與スル甲種補償、及ビ保險的ニ損失ヲ填補スル乙種補償ノ區別ヲ廢シ、總テ保險的ニ補償スル單一ノ制度トスルト共ニ、政府ノ損失補償ノ限度ヲ引上ゲ、又豫算ヲモ増加致スコトニ依リマ

シテ、最近ノ國際通商情勢ノ變化ニ對處シテ、一層輸出補償制度ヲ積極的ニ活用シ、以テ我ガ輸出貿易政策ノ遂行ニ遺憾ナキヲ期シタイト存ズル次第デアリマス、何卒十分御審議ノ上御協賛アラント希望致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、昭和十二年法律第九十二號中改正法律案委員ニ併セ付託サレント望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

二、昭和十二年法律第八十四號中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス

河田大藏大臣

第二 昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

正法律案(支那事變ニ關スル臨時軍事實費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)

(政府提出) 第一讀會

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

昭和十二年法律第八十四號中左ノ通改正

案

「百五十億七千八百八十萬圓」ヲ「百九十億四千九百萬圓」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(國務大臣河田烈君登壇)

○國務大臣(河田烈君) 只今上程セラレマシタ日程第二ニ付キ説明ヲ致シマス

支那事變ニ關スル經費ニ付キマシテハ、第七十一回乃至第七十五回及ビ今期帝國國會議ノ協賛ヲ經マシテ、其ノ財源ニ充ツル爲ノ公債發行ヲナシ得ル權能ヲ得テ居ルノデゴザイマスガ、事態ノ推移ニ伴ヒマシテ、更

ニ臨時軍事實費四十八億八千萬圓ノ追加ヲ計上致シタ次第デゴザイマス、其ノ所要財源中九億二百八十餘萬圓ニ付キマシテハ、一般會計並ニ特別會計ヨリ繰入金等ヲ以テ充當致シマシテ、尙ホ差引三十九億七千七百十餘萬圓ニ付キマシテハ、今日ノ場合之ヲ公債財源ニ依ルコトスル必要ガゴザイマス、仍テ昭和十二年法律第八十四號中、公債ノ發行限度ヲ增加スルノ必要ガゴザイマスノデ、本法提案ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、何卒御審議ノ上速カニ協賛ヲ與ヘラレント望ミマス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、昭和十六年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外一件委員ニ併セ付託サレント望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

一、日程第三、國民貯蓄組合法案、日程第四、國民更生金庫法案、日程第五、日本勸業銀行法中改正法律案、日程第六、北海道拓殖銀行法中改正法律案、日程第七、農工銀行法中改正法律案、右五案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス

河田大藏大臣

第三 國民貯蓄組合法案(政府提出)

第一讀會

第四 國民更生金庫法案(政府提出)

第一讀會

第五 日本勸業銀行法中改正法律案

第一讀會

第六 北海道拓殖銀行法中改正法律案

第一讀會

第七 農工銀行法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

國民貯蓄組合法案

國民貯蓄組合法案

國民貯蓄組合法案

國民貯蓄組合法案

國民貯蓄組合法案

國民貯蓄組合法案

國民貯蓄組合法案

國民貯蓄組合法案

國民貯蓄組合法案

國民貯蓄組合法案

國民貯蓄組合法案

國民貯蓄組合法案

第五 日本勸業銀行法中改正法律案 (政府提出) 第一讀會
第六 北海道拓殖銀行法中改正法律案 (政府提出) 第一讀會
第七 農工銀行法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
國民貯蓄組合法案
國民貯蓄組合法案
第一條 本法ニ於テ國民貯蓄組合トハ左ノ各號ノ一ニ掲グル者ヲ以テ組織シ戰時(戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム)ニ於ケル國民貯蓄ノ増強ニ資スル爲組合員ノ貯蓄ノ斡旋ヲ爲スモノヲ謂フ
一 市町村(町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノ)ノ一部ニシテ命令ヲ以テ定ムル區域内ニ居住スル者
二 官公署、學校、事務所、營業所、工場、事業場又ハ之ニ準ズベキモノニ勤務スル者
三 産業組合、商業組合、工業組合其ノ他同業者ノ組織スル團體ノ構成員
四 前各號ニ掲グル者ノ外命令ヲ以テ定ムル者
第二條 國民貯蓄組合ノ斡旋ヲ爲ス貯蓄ハ左ノ方法ニ依ルベシ
一 郵便貯金又ハ郵便年金ノ掛金若ハ簡易生命保險ノ保險料ノ拂込
二 銀行ヘノ預ケ金又ハ定期積金
三 信託會社ヘノ金錢信託
四 産業組合其ノ他命令ヲ以テ定ムル産業團體ヘノ貯金
五 無盡會社ヘノ無盡ノ掛金ノ拂込
六 生命保險ノ保險料ノ拂込
七 國債、貯蓄債券又ハ報國債券ノ買入
八 其ノ他主務大臣ノ指定スルモノ
前項ノ貯蓄ノ斡旋ノ方法ハ命令ヲ以テ

之ヲ定ム

第三條 國民貯蓄組合ヲ組織シタルトキハ組合ノ代表者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ規約ヲ變更シタルトキ亦同ジ
國民貯蓄組合解散シタルトキハ組合ノ代表者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ主務大臣ニ届出ツベシ
第四條 國民貯蓄組合ノ幹旋ニ依ル銀行預金又ハ合同運用信託ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノノ元本ガ三千圓ヲ超エザルトキハ其ノ利子又ハ利益ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ヲ免除ス國民貯蓄組合ノ幹旋ニ依リ買入レ命令ノ定ムル所ニ依リ郵便官署ニ保管ヲ委託シ又ハ登錄ヲ爲シタル國債ニシテ額面金額三千圓ヲ超エザルモノノ利子ニ付亦同ジ
國民貯蓄組合ノ幹旋ニ依ル銀行貯蓄預金、産業組合貯金其ノ他ノ預金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノノ元本ガ五千圓ヲ超エザルトキハ其ノ利子ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ヲ免除ス
前二項ノ場合ニ於テ預金又ハ合同運用信託ガ組合ノ代表者ノ名義ヲ以テ爲サルトキハ元本ハ組合員毎ニ其ノ預金又ハ合同運用信託ニ付之ヲ計算ス
前項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ於テ國債ノ保管ノ委託又ハ登錄ガ組合ノ代表者ノ名義ヲ以テ爲サル場合ノ額面金額ノ計算ニ之ヲ準用ス
前四項ノ元本及額面金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第五條 政府ハ豫算ノ範圍内ニ於テ國民貯蓄組合ニ補助金又ハ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得
第六條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第一條各號ノ

一ニ掲グル者ニ對シ國民貯蓄組合ヲ組織スベキコトヲ命ズルコトヲ得
第七條 主務大臣ハ國民貯蓄組合ノ代表者ニ對シ貯蓄ニ關シ報告ヲ爲サシメ、帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲シ又ハ組合ノ代表者ノ改任其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
第八條 主務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ定ムル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得
地方長官ハ前項ノ規定ニ依リ委任ヲ受ケタル職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ市町村長（市制第六條及第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區長、町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノ）ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得
第九條 貯蓄銀行ニ非ザル銀行ハ貯蓄銀行法第一條ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ國民貯蓄組合ノ幹旋ニ依ル場合ニ限リ同法第一條第一項第一號又ハ第二號ニ掲グル業務ヲ營ムコトヲ得
第四條第二項及第三項並ニ所得稅法第十一條、第二十一條及第二十九條中銀行貯蓄預金ニ關スル規定ハ前項ノ規定ニ依リ受入レタル預金ニハ之ヲ適用セズ

第十條 貯蓄銀行ニ非ザル銀行ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條第一項ノ規定ニ依リ受入レタル金額ノ三分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スベシ
前條第二項ノ預金ヲ爲シタル者ハ其ノ預金ニ關シテハ前項ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ニ付テハ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス
前項ノ規定ニ依リ優先辨濟ヲ受クル範圍ハ預金額ヲ限度トス
第十一條 國民貯蓄組合ノ代表者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ三百

圓以下ノ過料ニ處ス
第十二條 本法ニ規定スルモノノ外國民貯蓄組合ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ存スル團體ニシテ第一條各號ノ一ニ掲グル者ヲ以テ組織シ戰時（戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム）ニ於ケル國民貯蓄ノ増強ニ資スル爲メ第二條ニ掲グル貯蓄ノ幹旋ヲ爲スモノハ之ヲ本法ノ國民貯蓄組合ト看做ス
前項ノ國民貯蓄組合ノ代表者ハ本法施行後三月以内ニ第三條第一項ノ規定ニ準ジ組合規約ヲ主務大臣ニ届出ツベシ
印紙稅法中左ノ通改正ス
第五條第九號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
九ノ二 國民貯蓄組合ノ代表者カ組合ノ業務ニ關シ發スル金錢ノ寄託若ハ信託行爲ニ關スル證書若ハ通帳又ハ委任狀

國民更生金庫法案
國民更生金庫法
第一章 總則
第一條 國民更生金庫ハ時局ノ要請ニ應ジ轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ資産及負債ノ整理ヲ促進シ其ノ更生ヲ圖ルコトヲ目的トス
國民更生金庫ハ法人トス
第二條 國民更生金庫ハ主たる事務所ヲ東京市ニ置ク
國民更生金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケテ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得
第三條 國民更生金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ銀行其ノ他命令ノ定ムル法人ヲシテ業務ノ一部ヲ代理セシムルコトヲ得
第四條 國民更生金庫ノ資本金ハ二千萬

圓トス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ增加スルコトヲ得
第五條 政府ハ千九百萬圓ヲ國民更生金庫ニ出資スベシ
前項ノ出資ハ國債證券ヲ交付シテ之ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム
第六條 國民更生金庫ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ
一 目的
二 名稱
三 事務所ノ所在地
四 資本金額及資産ニ關スル事項
五 役員ニ關スル事項
六 業務及其ノ執行ニ關スル事項
七 更生債券ノ發行ニ關スル事項
八 會計ニ關スル事項
九 公告ノ方法
定款ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得
第七條 國民更生金庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ
第八條 國民更生金庫ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ
北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ國民更生金庫ノ事業ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第九條 國民更生金庫ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第十條 國民更生金庫ニ非ザル者ハ國民更生金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フ

國民貯蓄組合ノ代表者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ三百

圓以下ノ過料ニ處ス
第十二條 本法ニ規定スルモノノ外國民貯蓄組合ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ存スル團體ニシテ第一條各號ノ一ニ掲グル者ヲ以テ組織シ戰時（戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム）ニ於ケル國民貯蓄ノ増強ニ資スル爲メ第二條ニ掲グル貯蓄ノ幹旋ヲ爲スモノハ之ヲ本法ノ國民貯蓄組合ト看做ス
前項ノ國民貯蓄組合ノ代表者ハ本法施行後三月以内ニ第三條第一項ノ規定ニ準ジ組合規約ヲ主務大臣ニ届出ツベシ
印紙稅法中左ノ通改正ス
第五條第九號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
九ノ二 國民貯蓄組合ノ代表者カ組合ノ業務ニ關シ發スル金錢ノ寄託若ハ信託行爲ニ關スル證書若ハ通帳又ハ委任狀
國民更生金庫法案
國民更生金庫法
第一章 總則
第一條 國民更生金庫ハ時局ノ要請ニ應ジ轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ資産及負債ノ整理ヲ促進シ其ノ更生ヲ圖ルコトヲ目的トス
國民更生金庫ハ法人トス
第二條 國民更生金庫ハ主たる事務所ヲ東京市ニ置ク
國民更生金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケテ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得
第三條 國民更生金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ銀行其ノ他命令ノ定ムル法人ヲシテ業務ノ一部ヲ代理セシムルコトヲ得
第四條 國民更生金庫ノ資本金ハ二千萬

ルコトヲ得ズ

第二章 役員

第十一條 國民更生金庫ニ理事長一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第十二條 理事長ハ國民更生金庫ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

第十三條 理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ命ズ

第十四條 理事長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ從タル事務所ノ業務ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有スル代理人ヲ選任スルコトヲ得

第十五條 理事長及理事ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 國民更生金庫ニ評議員若十人ヲ置キ主務大臣之ヲ命ズ

第十七條 國民更生金庫ハ左ノ業務ヲ行フ

一 轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ爲ニスル資産ノ管理又ハ處分

二 轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ爲ニスル資金ノ融通

三 轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ爲ニスル債務ノ引受又ハ保證

四 前各號ノ業務ニ附帶スル事業

國民更生金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケテ前項ニ掲グル業務以外ノ業務ヲ行フコトヲ得

本法ニ規定スルモノノ外國民更生金庫ノ業務ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 國民更生金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ

一 國債、地方債又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ取得

第四章 厚生債券

第十九條 國民更生金庫ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限リ更生債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十條 更生債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名札付トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第二十一條 國民更生金庫ハ更生債券借換ノ爲一時第十九條ノ制限ニ依ラズ更生債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十二條 國民更生金庫ハ更生債券額ニ相當スル舊更生債券ヲ償還スベシ

第二十三條 政府ハ更生債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ヲ保證スルコトヲ得

第二十四條 國民更生金庫ニ於テ更生債券ヲ發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十五條 更生債券ノ消滅時効ハ元本ニ在リテハ十五年、利息ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス

第二十六條 所得税法及有價證券移轉税法中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ更生債券ニ之ヲ準用ス

第二十七條 本章ニ規定スルモノノ外更生債券ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 國民更生金庫ノ事業年度ハ四月ヨリ翌年三月迄トス

第二十九條 國民更生金庫ハ設立ノ時及毎事業年度ノ初ニ於テ財産目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス

出資者及債權者ハ業務時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 主務大臣ハ國民更生金庫ノ業務ヲ監督ス

第三十一條 國民更生金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十二條 國民更生金庫ハ業務開始ノ際業務ノ方法ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第六章 監督及補助

第三十三條 主務大臣ハ國民更生金庫ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、檢査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 主務大臣ハ國民更生金庫監督官ヲ置キ國民更生金庫ノ業務ヲ監視セシム

第三十五條 國民更生金庫監督官ハ何時ニテモ國民更生金庫ノ業務及財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

國民更生金庫監督官ハ國民更生金庫ノ諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十六條 役員ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行為ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第三十七條 政府ハ國民更生金庫ニ對シ第十七條ニ規定スル業務ニ因リテ受ケタル損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ契約ハ之ニ基キ交付スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第一項ノ損失ヲ決定スル基準ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十八條 前條第一項ノ損失及其ノ額ハ國民更生金庫損失審査會之ヲ決定ス

國民更生金庫損失審査會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 罰則

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ國民更生金庫ノ理事長、理事又ハ監事ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 本法ニ規定セザル業務ヲ營ミタルトキ

三 第十八條ノ規定ニ違反シ業務上ノ餘裕金ヲ運用シタルトキ

四 第十九條又ハ第二十一條第二項ノ規定ニ違反シ更生債券ノ發行ヲ爲シ

況ヲ檢査スルコトヲ得

國民更生金庫監督官ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ國民更生金庫ニ命ジテ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

國民更生金庫監督官ハ國民更生金庫ノ諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十六條 役員ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行為ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第三十七條 政府ハ國民更生金庫ニ對シ第十七條ニ規定スル業務ニ因リテ受ケタル損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ契約ハ之ニ基キ交付スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第一項ノ損失ヲ決定スル基準ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十八條 前條第一項ノ損失及其ノ額ハ國民更生金庫損失審査會之ヲ決定ス

國民更生金庫損失審査會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 罰則

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ國民更生金庫ノ理事長、理事又ハ監事ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 本法ニ規定セザル業務ヲ營ミタルトキ

三 第十八條ノ規定ニ違反シ業務上ノ餘裕金ヲ運用シタルトキ

四 第十九條又ハ第二十一條第二項ノ規定ニ違反シ更生債券ノ發行ヲ爲シ

又ハ償還ヲ爲サザルトキ

五 主務大臣ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

六 國民更生金庫監理官ノ検査ヲ拒ミ、妨若ハ忌避シ又ハ其ノ命ズル報告ヲ爲サザルトキ

第四十條 左ノ場合ニ於テハ國民更生金庫ノ理事長、理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二 第二十九條ノ規定ニ違反シ書類ヲ備置サザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

第四十一條 第十條ノ規定ニ違反シ國民更生金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

附則

第四十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十三條 主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ國民更生金庫ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第四十四條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府以外ノ出資者ノ出資ノ申込書ト共ニ之ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第四十五條 出資ノ拂込完了シタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務ヲ國民更生金庫理事長ニ引繼グベシ

理事長前項ノ事務ノ引繼ヲ受ケタルトキハ理事長、理事及監事ノ全員ハ設立ノ登記ヲ爲スベシ

國民更生金庫ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第四十六條 本法施行ノ際現ニ國民更生金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フル者ハ本法施行後六月以内ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス

第十條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ニ掲グル者ニ適用セズ

第四十七條 國民更生金庫ガ財團法人國民更生金庫ノ權利ヲ讓受ケ又ハ其ノ義務ヲ引受ケントスル場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ讓受又ハ引受ハ財團法人國民更生金庫ノ解散ノ日ニ於ケル財産目録ニ記載シタル價額ニ依ルコトヲ得

國民更生金庫ガ前項ノ價額ニ依リ第一項ノ讓受又ハ引受ヲ爲シタルニ因リ受ケタル損失ハ之ヲ第三十七條第一項ノ損失ト看做ス

第四十八條 登録税法中左ノ通改正ス

第十九條第七號中「庶民金庫」ノ上ニ「國民更生金庫」ヲ、

「庶民金庫」ノ上ニ「國民更生金庫法」ヲ加フ

同條第十七號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

十七ノ二 國民更生金庫ガ國民更生金庫法第十七條ニ規定スル業務ノ爲ニスル權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記又ハ登録

同條第十八號中「庶民金庫」ノ上ニ「國民更生金庫」ヲ加フ

第四十九條 印紙税法中左ノ通改正ス

第五條第五號ノ二ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五ノ三 國民更生金庫ノ業務ニ關スル證書帳簿及更生債券

第五十條 政府出資特別會計法中左ノ通改正ス

第五條ニ左ノ一項ヲ加フ

公債ノ交付ニ依リ出資ヲ爲ス爲必要

アルトキハ政府ハ前項ノ規定ニ依ルノ外本會計ノ負擔ニ於テ公債ヲ發行スルコトヲ得

日本勸業銀行法中改正法律案

第十四條 日本勸業銀行ハ五十箇年以内ニ於テ割賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スモノトス

日本勸業銀行ハ不動産ヲ抵當トシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得

但シ水産業ノ爲貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ漁業權又ハ漁船ヲ抵當ト爲シ、山林ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ二十箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得

前項ノ貸付金額及第三十一條ノ二ノ貸付金額ハ拂込資本金額及積立金總高ノ二倍ヲ超過スルコトヲ得ス

法律ノ規定ニ依リ一箇ノ物ト看做サルル財團ハ本法ノ適用ニ付キテハ之ヲ不動産ト看做ス

第十四條ノ二中「拂込資本金額」ノ下ニ「積立金總高」ヲ加フ

第十五條第二項中「年賦償還貸付」ヲ「割賦償還貸付」ニ、同條第三項中「重要輸出品工業組合」ヲ「工業組合」ニ、

「年賦償還貸付」ヲ「割賦償還貸付」ニ改ム

同條第四項ヲ左ノ如ク改ム

五人以上ノ農業者、林業者、工業者又ハ漁業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限り五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ又ハ十箇年以内ニ於テ割賦償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得但シ農工銀行ノ存在スル府縣内ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

同條第五項中「年賦償還貸付」ヲ「割賦償還貸付」ニ改ム

第十五條ノ二、第十六條及第十八條中「漁業權」ノ下ニ「又ハ漁船」ヲ加フ

第十九條 日本勸業銀行ハ財團ヲ抵當トスル貸付ヲ爲サントスル場合ニ於テ財團設定ニ關スル登記又ハ登録ノ申請アリテ其ノ財團ノ設定セラルルコト確實ト認メタルトキハ抵當權設定ノ登記又ハ登録ノ完了前ト雖貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十一條中「年賦償還」ヲ「割賦償還」ニ、「据置年限」ヲ「据置期間」ニ、「一年限間」ヲ「期間内」ニ改ム

第二十一條ノ二中「年賦償還期限」ヲ「割賦償還期限」ニ、「据置年限」ヲ「据置期間」ニ改ム

第二十二條中「年賦金」ヲ「割賦金」ニ改ム

第二十三條中「年賦償還」ヲ「割賦償還」ニ改ム

第二十五條及第二十八條中「年賦金」ヲ「割賦金」ニ改ム

第三十一條中「年賦償還貸付金」ヲ「割賦償還貸付金」ニ、「年賦償還」ヲ「割賦償還」ニ改ム

第三十一條ノ四中「拂込資本金額」ノ下ニ「及積立金總高」ヲ加フ

第三十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

日本勸業銀行ハ左ノ方法ニ依ルノ外前條ノ預リ金又ハ營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

一 預リ金四分ノ一以上ハ國債證券若ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ應募、引受若ハ買入ヲ爲シ又ハ大藏省預金部若ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ニ預入ヲ爲スコト但シ國債證券以外ノ有價證券ノ保有額ハ預リ金ノ總額ヲ超過スルコトヲ得ス

二 前號ノ證券又ハ農産物、林産物、水産物若ハ工業製造品ヲ擔保トスル手形ノ割引又ハ短期貸付ヲ爲スコト

三 産業組合、蠶絲共同施設組合、工

業組合、漁業組合若ハ其ノ聯合會又ハ特別ノ法令ニ依リ設立セラレ農林若ハ水産ニ關スル事業ヲ營ム法人ニシテ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタルモノニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

四 五人以上ノ農業者、林業者、工業者又ハ漁業者中合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限り無擔保ニテ短期貸付ヲ爲スコト但シ農工銀行ノ存在スル府縣内ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

五 公共團體ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

第三十四條中「年賦償還貸付金總高」ヲ「割賦償還貸付金總高」ニ改ム
第三十五條ノ四ヲ第三十五條ノ五トス
第三十五條ノ四 賣出ノ方法ニ依リ發行シタル勸業債券ニ付キテハ變更ノ登記ハ之ヲ爲スコトヲ要セス但シ其ノ總額ノ償還アリタルトキハ其ノ登記ヲ爲シ且毎年末ニ於ケル其ノ償還ヲ了ヘサル額ノ合計額ヲ本店ノ所在地ニ於テハ四週間、支店ノ所在地ニ於テハ五週間以内ニ登記スルコトヲ要ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
復興貯蓄債券法第九條及臨時資金調整法第十五條中「第三十五條ノ二、第三十五條ノ三」ヲ「第三十五條ノ二乃至第三十五條ノ四」ニ改ム

北海道拓殖銀行法中改正法律案

北海道拓殖銀行法中左ノ通改正ス
第七條第一項中「年賦償還」ヲ「割賦償還」ニ、「又ハ漁業權」ヲ「漁業權又ハ漁船」ニ改メ同項第二號ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ山林ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ二十年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得
同條第三項中「漁業權」ノ下ニ「又ハ漁船」ヲ加フ
同條第四項ヲ左ノ如ク改ム
法律ノ規定ニ依リ一箇ノ物ト看做サルル財團ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ不動產ト看做ス

第八條中「年賦」ヲ「割賦」ニ、「十人以上ノ農業者」ヲ「五人以上ノ農業者、林業者」ニ、「年賦償還」ヲ「割賦償還」ニ、「重要輸出品工業組合」ヲ「工業組合」ニ改ム
第八條ノ三中「年賦償還」ヲ「割賦償還」ニ、「据置年限」ヲ「据置期間」ニ、「年賦償還期限」ヲ「割賦償還期限」ニ改ム
第十一條ノ二中「年賦金」ヲ「割賦金」ニ改ム

第十二條中「年賦償還貸付金總高」ヲ「割賦償還貸付金總高」ニ改ム
第十三條、第十四條及第二十條中「年賦償還貸付金」ヲ「割賦償還貸付金」ニ改ム

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

農工銀行法中改正法律案
農工銀行法中左ノ通改正ス
第六條中「年賦償還」ヲ「割賦償還」ニ、「十人以上ノ農業者」ヲ「五人以上ノ農業者、林業者」ニ改メ同條第二號ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ山林ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ二十年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得

第六條ノ二及第七條中「拂込資本金額」ノ下ニ「積立金總高」ヲ加フ
第七條ノ二中「漁業權」ノ下ニ「又ハ漁船」ヲ加フ
第七條ノ五中「重要輸出品工業組合」ヲ「工業組合」ニ改ム

第七條ノ六、第八條及第十條中「漁業權」ノ下ニ「又ハ漁船」ヲ加フ
第十一條 農工銀行ハ財團ヲ抵當トスル貸付ヲ爲サントスル場合ニ於テ財團設定ニ關スル登記ノ申請アリテ其ノ財團ノ設定セラルルコト確實ト認メタルトキハ抵當權設定ノ登記ノ完了前ト雖貸付ヲ爲スコトヲ得

第十三條中「年賦償還」ヲ「割賦償還」ニ、「据置年限」ヲ「据置期間」ニ、「年限間」ヲ「期間内」ニ改ム
第十三條ノ二中「年賦償還期限」ヲ「割賦償還期限」ニ、「据置年限」ヲ「据置期間」ニ改ム
第十四條中「年賦金」ヲ「割賦金」ニ改ム
第十五條中「年賦償還」ヲ「割賦償還」ニ改ム

第十七條及第二十條中「年賦金」ヲ「割賦金」ニ改ム
第二十二條中「拂込資本金額」ノ下ニ「及積立金總高」ヲ加フ
第二十三條中「農産物」ノ下ニ「林産物」ヲ加フ同條中「重要輸出品工業組合」ヲ「工業組合」ニ、「十人以上ノ農業者」ヲ「五人以上ノ農業者、林業者」ニ改ム

第二十四條中「年賦償還貸付金」ヲ「割賦償還貸付金」ニ、「年賦償還」ヲ「割賦償還」ニ改ム
第二十六條中「年賦償還貸付金總高」ヲ「割賦償還貸付金總高」ニ改ム
第二十七條及第三十條中「年賦償還貸付金」ヲ「割賦償還貸付金」ニ改ム

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(國務大臣河田烈君登壇)
國務大臣(河田烈君) 只今一括上程セラレマシタ日程第三乃至第七ノ議案ニ付キマシテ、一括致シマシテ説明申上ガマス
先づ第一ニ國民貯蓄組合法案ニ付テ申上

ゲマス、政府ニ於キマシテハ今次事變ノ勃發以來戰時財政經濟ノ圓滑ナル運行ヲ圖ル爲メ、國民貯蓄ノ獎勵ニ力ヲ致シテ參ツタノデゴザイマスガ、就中國民貯蓄組合ノ結成ニ依リ、貯蓄ノ獎勵ヲ行フコトノ極メテ重要ナルヲ認メマシテ、是ガ普及及發達ニ力ヲ注イデ居ルノデゴザイマス、即チ組合ヲ結成シ、團體的ニ、組織的ニ國民貯蓄ヲ實行セシメマシテ、

(議長退席、副議長着席)

以テ戰時資金ノ蓄積ノ遺憾ナキヲ期シテ參ツタ次第デゴザイマス、而モ國民貯蓄組合ノ運営ニ付キマシテハ、適當ナル指導監督ヲ加ヘ、大體ニ於キマシテ所期ノ發達ヲ見テ來タノデゴザイマスガ、今後一層此ノ組合ヲ核心トシテ、國民貯蓄ノ増強ヲ圖ラネバナラヌ秋ニ當リマシテハ、更ニ之ヲ整備改メ、一面助成ノ途ヲ拓クト共ニ、他方一層ノ指導監督ヲ加ヘマシテ、組合ノ健全ナル發達ヲ圖リ、以テ現下ノ財政經濟ノ運行ニ對處致シタイト存ジマシテ、本法案ヲ提出致シタ次第デゴザイマス

次ニ國民更生金庫法案ニ付キマシテ御説明申上ガマス、我が國經濟組織ニ於テ重要ナル地位ヲ占メテ居リマス所ノ中小商工業者ニ對シマシテハ、常ニ適切ナル施策ヲ講ジ、國民生活ノ安定ニ資スルノ要ガアリマスコトハ、今更申上ガルマデモナイ所デゴザイマス、而シテ支那事變ノ進展ニ伴ヒマシテ、殊ニ最近ノ如ク緊迫セル國際情勢ノ下ニ於キマシテハ、國內經濟ノ統制ガ更ニ強化セラレル運命ニアルコトハ已ムヲ得ナイ所デゴザイマスガ、其ノ結果一部ノ中小商工業者ニ對シマシテハ、少カラザル影響ヲ與フルコトナルモノト考ヘラレルノデゴザイマス、政府ハ是等中小商工業者ニ對シマシテハ、低利資金ノ融通、中小商工業資金金融通損失補償制度ノ擴充、商工組合中央金庫ノ活動ノ促進ナドノ措置ヲ講ジマ

シテ、是ガ維持育成ニ努メテ參ツテ居ルノデ
ゴザイマスガ、ソレニモ拘ラズ轉業又ハ廢
業ノ餘儀ナキニ立至ル者ニ對シマシテハ、
軍需産業其ノ他ノ方面ヘノ轉換ヲ指導シ、
補助金ノ交付、低利資金ノ融通等、諸般ノ
施策ヲ實行シテ參ツタノデゴザイマスガ、
尙ホ是ガ十全ヲ期スルガ爲メ、政府ハ此ノ
度國民職業指導所及ビ國民勤勞訓練所ト相
竝ビマシテ、國民更生金庫ヲ設ケルコトト
致シタ次第デゴザイマス、即チ國民更生金
庫ニ付キマシテハ、暫定的ノ措置ト致シマ
シテ、昨年十二月民法ニ基ク財團法人國民
更生金庫ノ設立ヲ見タノデゴザイマスガ、
業務ノ性質上民法上ノ法人デハ十分ナラザ
ルノ憾ミガアリマスノデ、此ノ度特別ノ法
律ヲ制定シ、特別法人ヲシテ之ニ當ラシム
ルコトニ致シタイト存ズル次第デゴザイマ
ス、國民更生金庫ハ時局ノ要請ニ應ジ轉廢
業ヲナサントスル中小商工業者等ノ爲ニ、
其ノ資産及ビ負債ノ整理ヲ容易ナラシメ、
是等ノ者ヲシテ容易ニ新シイ職域ニ進出致
シ、奉公ノ誠ヲ致サセルコトヲ目的トスル
モノデゴザイマシテ、現下ノ事態ニ顧ミ緊要
ノ施設デアルト信ズル次第デゴザイマス
其ノ次ニ日本勸業銀行法中改正法律案、
是ハ便宜上他ノ二案即チ北海道拓殖銀行法
中改正法律案及ビ農工銀行法中改正法律
案、之ヲ一括シテ説明申上ゲタイト存ジマ
ス

日本勸業銀行法及ビ農工銀行法ハ明治二
十九年、又北海道拓殖銀行法ハ明治三十二
年ノ制定ニ係ルモノデゴザイマシテ、是等ノ
法律ハ當初不動産銀行ノ堅實ナル發達ヲ期
スルガ爲ニ、其ノ業務ニ對シ嚴重ナル制限
ヲ設ケタノデゴザイマスガ、是等ノ銀行
ハ創立ノ後、何レモ順調ナル發展ヲ示シマ
シテ、其ノ信用モ漸次加ハルニ從ヒマシテ、
是等ノ法律ニ依ル制限ガ嚴シ失スルノ嫌ヒ
アルニ至リマシタノデ、今日マデ屢、其ノ改

正ヲ行ツテ參リマシテ、時勢ノ進運ニ即應
セシメテ參ツタノデゴザイマス、然ルニ今
次事變ノ進展ニ伴ヒマシテ、我が國經濟界
ガ飛躍ノ發達ヲ遂グルニ際シマシテ、是
等銀行ガ今日ノ時局下ニ於テ擔當致スベキ
任務モ、亦一層重大トナツテ參ツタノデゴ
ザイマス、而シテ斯カル情勢ニ對處スル爲
ニハ、是等ノ銀行ノ機能ヲ一層擴充スルノ
必要ガ認めラレマスノデ、茲ニ本案ヲ提
出シタ次第デゴザイマス、以上各案ニ對シ
マシテ何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレ
コトヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(田子一民君) 各案ノ審査ヲ付託
スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 日程第三乃至第七ノ五案ヲ
一括シテ議長指名十八名ノ委員ニ付託サレ
ンコトヲ望ミマス

○副議長(田子一民君) 服部君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認め
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程
第八及ビ第九ハ、便宜上一括議題トナスニ
御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認め
マス、仍テ日程第八、人造石油製造事業法
中改正法律案、日程第九、帝國燃料興業株
式會社法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ
第一讀會ヲ開キマス——小島商工次官

第八 人造石油製造事業法中改正法律
案(政府提出) 第一讀會

第九 帝國燃料興業株式會社法中改正
法律案(政府提出) 第一讀會

人造石油製造事業法中改正法律案
人造石油製造事業法中左ノ通改正ス

第九條 人造石油製造會社其ノ製造シタ
ル人造石油ヲ販賣セントスルトキハ政
府ノ定ムル價格ニ依ルベシ但シ特別ノ
事情ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタル場合
ハ之ト異リタル價格ニ依ルコトヲ得
前項本文ノ價格ハ命令ノ定ムル所ニ依
リ生産費及相當利益ヲ參酌シテ之ヲ定
ム

第十條 削除

第十六條 第一項中「販賣價格ノ變更其ノ
他」ヲ削リ同條第二項中「製造方法ノ改
善」ノ下ニ「其ノ他生産ニ關シ必要ナル事
項」ヲ加フ

第十八條 中「其ノ所有スル」ヲ「其ノ製造
シタル」ニ、「時價ヲ標準トシテ」ヲ「第九
條第一項ノ價格ニ依リ」ニ改ム

第十九條 削除

第二十二條 人造石油製造會社左ノ各號
ノ一ニ該當スルトキハ其ノ取締役又ハ
其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ三千圓以下ノ
罰金ニ處ス

一 第九條第一項ノ規定ニ違反シ同條
同項ノ價格ニ依ラズシテ人造石油ヲ
販賣シタルトキ

二 第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依
ル命令ニ違反シタルトキ

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行前ニ人造石油製造會社ノ製造シ
タル人造石油ニ係ル獎勵金及其ノ返還金
竝ニ本法施行前ニ交付シタル獎勵金ノ返
還金ニ付テハ第九條及第十條ノ改正規定
ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

帝國燃料興業株式會社法中改正法律案
帝國燃料興業株式會社法中左ノ通改正ス
第十條 第二項中「株主中ヨリ株主總會ニ
於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨ
リ之ヲ命ジ」ヲ「株主總會ニ於テ之ヲ選任
シ政府ノ認可ヲ受クルモノトシ」ニ改メ

同條第三項中「株主中ヨリ」ヲ削ル
第十三條 第一項中「三倍」ヲ「五倍」ニ改ム

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ理事ノ職ニ在ル者ノ在
職ニ付テハ第十條第二項ノ改正規定ニ拘
ラズ仍從前ノ例ニ依ル

〔政府委員小島新一君登壇〕

○政府委員(小島新一君) 只今議題トナリ
マシタ人造石油製造事業法中改正法律案竝
ニ帝國燃料興業株式會社法中改正法律案ノ
提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス

人造石油製造事業ハ、我が國液體燃料需
給ノ實情ニ鑑ミマシテ、今後一段ノ強化擴
充ヲ要スルモノトアリマシテ、是ガ振興及
ビ助長ニ對處スル爲メ、兩法中一部改正ヲ
致シタイト存ズルデアリマス

人造石油製造事業法ニ付キマシテハ、人
造石油ノ生産ガ今後大量且ツ多種類トナル
コトヲ考慮シマシテ、現行ノ獎勵金交付制
度ヲ廢止シ、適正價格ヲ公定シ、石油共販株
式會社ヲシテ一括購入セシメ、從來各社別
ニ交付致シテ居リマシタ獎勵金ハ、之ヲ石
油共販株式會社ニ一括交付シマシテ、石油
價格ノ昂騰ヲ避ケタイト考ヘマス、次ニ人
造石油製品ハ、今後品種竝ニ數量ニ付テ、
軍民ノ需要ト合致セシムル必要ガアリマス
爲メ、生産ノ調整ヲナシ得ルヤウ規定セン
トスルモノデアリマス

帝國燃料興業株式會社法ニ付キマシテハ、
人造石油製造事業ノ強化ニ對應シマシテ、
資金ノ調達ヲ圓滑ナラシムル爲メ、取敢ズ
同社ノ社債發行限度ヲ五倍ニ擴大シ、之ニ
備ヘントスルモノデアリマス、以上ガ今回
改正法律案ヲ提出シマシタ骨子デアリマ
ス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛ヲ賜ハラ
ンコトヲ御願ヒ致シマス(拍手)

○副議長(田子一民君) 各案ノ審査ヲ付託
スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 日程第八及第九ノ兩案ハ

一括シテ政府提出、昭和十二年法律第九十二號中改正法律案委員ニ併セ付託サレシコトヲ望ミマス

○副議長(田子一民君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼ブ者アリ

○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ政府提出、帝國石油株式會社法案ハ、只今委員ニ付託セラレタル日程第八及第九ト關聯セル議案ナルニ付キ、此ノ際特ニ上程シ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子一民君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼ブ者アリ

○副議長(田子一民) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ 帝國石油株式會社法案ノ第一讀會ヲ開キマス 小島商工次官

帝國石油株式會社法案(政府提出) 第一讀會

帝國石油株式會社法案 第一章 總則

第一條 帝國石油株式會社ハ石油資源ノ開發ヲ促進シ石油事業ノ振興ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

第二條 帝國石油株式會社ノ資本ハ一億圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 政府ハ五千萬圓ヲ限リ帝國石油株式會社ニ出資スベシ 政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコト

ヲ得 第四條 帝國石油株式會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ五分ノ一迄下ルコトヲ得

第五條 帝國石油株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上、資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人若ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得

第六條 帝國石油株式會社ニ非ザルモノハ帝國石油株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第二章 役員

第七條 帝國石油株式會社ニ總裁副總裁各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第八條 總裁ハ帝國石油株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ帝國石油株式會社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ帝國石油株式會社ノ業務ヲ監査ス

第九條 總裁及副總裁ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クルモノトシ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第十條 總裁、副總裁及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ従事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 營業 第十一條 帝國石油株式會社ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一 石油資源ノ調査又ハ開發
二 石油ノ賣買
三 石油資源ノ開發事業ニ對スル資金ノ融通又ハ投資
四 前各號ノ事業ニ附帶スル事業

帝國石油株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ノ外本會社ノ目的達成上必要ナル諸事業ヲ營ムコトヲ得

第四章 帝國石油債券

第十二條 帝國石油株式會社ハ拂込ミタル株金額ノ三倍ヲ限リ帝國石油債券ヲ發行スルコトヲ得

帝國石油債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セス

第十三條 帝國石油債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十四條 政府ハ帝國石油債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第十五條 帝國石油債券ノ所有者ハ帝國石油株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

前項ノ規定ハ民法上ノ一般ノ先取特權ノ行使ヲ妨グルコトナシ

第五章 準備金 第十六條 帝國石油株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第六章 監督及助成 第十七條 政府ハ帝國石油株式會社ノ業務ヲ監督ス

第十八條 帝國石油株式會社借入金ヲ爲

サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十九條 定款ノ變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十條 帝國石油株式會社ハ每營業年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第二十一條 政府ハ帝國石油株式會社ノ業務ニ關シ監督上又ハ石油事業ノ振興上其ノ他公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 政府ハ帝國石油株式會社ノ業務ニ關シ軍事上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 政府ハ帝國石油株式會社監理官ヲ置キ帝國石油株式會社ノ業務ヲ監視セシム

第二十四條 帝國石油株式會社監理官ハ何時ニテモ帝國石油株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ檢査スルコトヲ得

帝國石油株式會社監理官必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ帝國石油株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

帝國石油株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ帝國石油株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十六條 帝國石油株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利

益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ
第二十七條 帝國石油株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ達セザルトキ(利益金額ナキトキ及缺損ヲ生ジタルトキヲ含ム)ハ政府ハ第十營業年度迄之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ

每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ規定ニ依ル補給金ノ償還ニ充ツベシ
第十營業年度迄每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ規定ニ依ル補給金ノ償還ニ充ツベシ

前二項ノ規定ニ依ル積立金ハ後營業年度ニ於ケル第一項ノ規定ニ依ル補給金ノ計算ニ付テハ之ヲ配當シ得ベキ利益金ト看做ス
第二十八條 帝國石油株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第二十九條 帝國石油株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間其ノ事業ニ付所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス
帝國石油株式會社ノ所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超エハトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ本法施行ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間帝國石油株式會社ニハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業税ノ附加税ヲ除クノ外其ノ事業ニ對シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七章 罰則
第三十一條 帝國石油株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ總裁又ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ
一 本法ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ

於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ
二 第十一條ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ
三 第十二條第一項ノ規定ニ違反シ帝國石油債券ヲ發行シタルトキ
四 第二十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキ
第三十二條 帝國石油株式會社ノ總裁、副總裁又ハ理事第十條ノ規定ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス
第三十三條 第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第三十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第三十五條 昭和十五年七月二十四日設立セラレタル帝國石油資源開發株式會社(以下帝國石油資源開發株式會社ト稱ス)ハ命令ヲ定ムル所ニ依リ商法第三百四十三條ニ定ムル株主總會ノ決議ヲ以テ帝國石油株式會社ト爲ルコトヲ得帝國石油資源開發株式會社前項ノ決議ヲ爲シタルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第三十六條 前條ノ認可ヲ爲シタルトキハ政府ハ設立委員ヲ命ジ帝國石油資源開發株式會社ヲ帝國石油株式會社ト爲ス爲ニ必要ナル事務ヲ處理セシム
前項ノ設立委員ノ申少クトモ二人ハ帝國石油資源開發株式會社ノ取締役ノ中ヨリ之ヲ命ズルコトヲ要ス
設立委員ノ任命アリタル後ハ帝國石油資源開發株式會社ノ取締役ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ會社ノ常務ニ屬セザル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ
第三十七條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ
第三十八條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ總株式ヨリ帝國石油資源開發株式會社ノ株式ニ引當テラルベキ株式及政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ
第三十九條 株式申込證ニハ商法第百七十五條第二項第二號及第四號乃至第七號ニ規定スル事項ノ外定款認可ノ年月日ヲ記載スベシ
第四十條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ檢査ヲ受クベシ
第四十一條 設立委員ハ前條ノ檢査ヲ受ケタル後遲滞ナク各新株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ
第四十二條 前條ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スベシ
第四十三條 創立總會ニ於テハ第九條ノ規定ニ準ジ理事及監事ノ選任ヲ行フベシ

第四十四條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ帝國石油株式會社總裁ニ引渡スベシ
第四十五條 帝國石油株式會社ノ成立ニ因リ帝國石油資源開發株式會社ハ之ニ吸收セララルモノトシ帝國石油資源開發株式會社ノ權利義務ハ帝國石油株式會社ニ於テ之ヲ承繼ス
第四十六條 前條ノ規定ニ依リ帝國石油資源開發株式會社ガ帝國石油株式會社ト爲リタルトキハ法人税法、營業税法及臨時利得税法ノ適用ニ關シテハ帝國石油資源開發株式會社ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ト看做シ帝國石油株式會社ハ之ヲ合併ニ因リテ設立シタル法人ト看做ス
帝國石油株式會社ガ設立ノ登記ヲ受クルトキハ其ノ拂込株金額中帝國石油資源開發株式會社ノ拂込株金額ニ相當スル部分ニ付テハ登錄税ヲ課セズ

發株式會社ノ株式ニ引當テラルベキ株式及政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ
第三十九條 株式申込證ニハ商法第百七十五條第二項第二號及第四號乃至第七號ニ規定スル事項ノ外定款認可ノ年月日ヲ記載スベシ
第四十條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ檢査ヲ受クベシ
第四十一條 設立委員ハ前條ノ檢査ヲ受ケタル後遲滞ナク各新株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ
第四十二條 前條ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スベシ
第四十三條 創立總會ニ於テハ第九條ノ規定ニ準ジ理事及監事ノ選任ヲ行フベシ

發株式會社ノ株式ニ引當テラルベキ株式及政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ
第三十九條 株式申込證ニハ商法第百七十五條第二項第二號及第四號乃至第七號ニ規定スル事項ノ外定款認可ノ年月日ヲ記載スベシ
第四十條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ檢査ヲ受クベシ
第四十一條 設立委員ハ前條ノ檢査ヲ受ケタル後遲滞ナク各新株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ
第四十二條 前條ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スベシ
第四十三條 創立總會ニ於テハ第九條ノ規定ニ準ジ理事及監事ノ選任ヲ行フベシ

第四十七條 第三十五條乃至前條ニ規定スルモノヲ除クノ外帝國石油資源開發株式會社ガ帝國石油株式會社ト爲ル場合ニ於テ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 第三十五條第一項ノ決議ナキ場合又ハ其ノ決議ガ效力ヲ生ゼザル場合ニ於テ帝國石油株式會社ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十九條 本法施行ノ際現ニ帝國石油株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ商號ト爲ス會社ハ本法施行後六月以內ニ其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス

第三十三條ノ規定ハ前項ノ期間內之ヲ前項ニ掲グル者ニ適用セズ

第五十條 登錄稅法第六條第一項第十一號中「燃料興業債券」ノ下ニ「帝國石油債券」ヲ加フ

〔政府委員小島新一君登壇〕
○政府委員(小島新一君) 只今議題トナリマシタ帝國石油株式會社法案ノ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス

石油ハ産業上竝ニ國防上極メテ重要ナル資源デアリマシテ、其ノ自給ヲ確保シマスコトハ、現下ノ時局ニ鑑ミ、我が國最大ノ急務デアルト信ズルデアリマス、此ノ目的ノ爲メ、政府ニ於キマシテハ内外石油資源ノ開發ヲ圖ルト共ニ、人造石油事業ノ振興ヲ策シ、又代用燃料ノ使用ヲ普及セシメ、燃料ノ合理的利用ヲ講ジ、更ニ石油業ノ經營ノ合理化ヲ圖ル等、各般ノ施策、施設ヲ實施致シマシテ、自給確保ノ萬全ヲ期シツツアルノデアリマス、就中石油資源ノ開發ハ、石油問題解決ノ最モ基本的對策デアルト思料スルノデアリマシテ、國內油田ニ付キマシテハ、曩ニ石油資源開發法ヲ施行致シマシテ、從來實施シテ參リマシタ石油試掘獎勵制度ヲ擴大強化シ、國內石油資源ノ合理的開發ヲ圖ル

ト共ニ、海外石油資源ニ付テモ助成金ヲ交付シ、其ノ事業ヲ助成シテ居ル有様デアリマス

斯クノ如ク石油資源ノ開發促進ニ關シマシテハ、政府ニ於キマシテモ各般ノ施設ヲ講ジテ參ツテ居ルノデアリマスガ、石油資源開發事業ハ、其ノ事業ノ性質上、相當困難ヲ伴フモノデアリ、之ヲ積極的ニ遂行致シマスノニハ、非常ニ多額ノ資金、資材優秀ナル技術ヲ必要トスルノデアリマス、仍テ政府ニ於キマシテハ、此ノ際石油資源ノ積極的開發ヲ促進スル爲メ、茲ニ半官半民ノ資本組織ニ依ル資本金一億圓ノ特殊會社ヲ設立セシメマシテ、之ニ對シ五千萬圓ヲ出資致シマスルト共ニ、配當補給、社債ノ元利支拂保證、租稅ノ免除等、特別ノ保護助成ヲ與ヘ、適當ナル指導監督ノ下ニ、石油資源開發其ノ他ノ事業ヲ經營セシムルコトト致シマシテ、帝國石油株式會社法ヲ制定スルコトニ致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協贊ヲ賜ハラント御願ヒ致シマス(拍手)

○副議長(田子一民君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、昭和十二年法律第九十二號中改正法律案委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子一民君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

第十及ビ第十一ハ、便宜上一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第十、東亞海運株式會社法案、日程第十一、郵便貯金法中改正法律案ヲ一括シ第一讀會ヲ開キマス

第十 東亞海運株式會社法案 第一讀會 (政府提出)
第十一 郵便貯金法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

東亞海運株式會社法案 第一章 總則

第一條 東亞海運株式會社ハ支那ヲ中心トスル本邦海運業ノ振興發展ヲ圖ルヲ目的トスル株式會社トス

第二條 東亞海運株式會社ノ資本ハ一億圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ增加スルコトヲ得

第三條 政府ハ東亞海運株式會社ニ對シ出資ヲ爲スコトヲ得

政府ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

第四條 東亞海運株式會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得

式トシ、政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上、資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人若ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得

政府ノ許可ヲ受ケタル者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ東亞海運株式會社ノ株式ヲ所有スルコトヲ得

第七條 東亞海運株式會社ニ非ザルモノハ東亞海運株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第二章 役員

第八條 東亞海運株式會社ニ社長副社長各一人、理事五人以上及監事二人以上ヲ置ク

第九條 社長ハ東亞海運株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副社長ハ社長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ社長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副社長及理事ハ社長ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ東亞海運株式會社ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

第十條 社長及副社長ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クルモノトシ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第十一條 社長、副社長及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 業務

第十二條 東亞海運株式會社ハ支那各港

第六條 東亞海運株式會社ノ株式ハ記名株式會社ニハ之ヲ適用セズ

當ル者出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第三十九條 創立總會ニ於テハ第十條ノ規定ニ準ジ理事及監事ノ選任ヲ行フベシ

第四十條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ東亞海運株式會社社長ニ引渡スベシ

第四十一條 商法第六十七條、第六十八條及第六十五條ノ規定ハ東亞海運株式會社ノ設立ニハ之ヲ適用セズ

第四十二條 東亞海運株式會社ノ成立ニ因リ暫定會社ハ之ニ吸收セラレルモノトシ暫定會社ノ權利義務ハ東亞海運株式會社ニ於テ之ヲ承繼ス

第四十三條 前條ノ規定ニ依リ暫定會社ガ東亞海運株式會社ト爲リタルトキハ法人稅法及營業稅法ノ適用ニ關シテハ暫定會社ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ト看做シ東亞海運株式會社ハ之ヲ合併ニ因リテ設立シタル法人ト看做ス

東亞海運株式會社ガ設立ノ登記ヲ受クルトキハ其ノ拂込株金額中暫定會社ノ拂込株金額ニ相當スル部分ニ付テハ登録稅ヲ課セズ東亞海運株式會社ガ前條ノ規定ニ依リ暫定會社ヨリ不動産又ハ船舶ニ關スル權利ヲ承繼スル場合ニ於テハ其ノ取得ニ付登記ヲ受クルトキ亦同シ

前條ノ規定ニ依リ暫定會社ヨリ東亞海運株式會社ヘノ有價證券ノ移轉ニ付テハ有價證券移轉稅ヲ課セズ

第四十四條 第三十一條乃至前條ニ規定スルモノヲ除ク外暫定會社ガ東亞海運株式會社ト爲ル場合ニ於テ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十五條 第三十一條第一項ノ決議ナキ場合又ハ其ノ決議ガ效力ヲ生ゼザル場合ニ於テハ東亞海運株式會社ノ設立

ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 本法施行ノ際現ニ東亞海運株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ商號ト爲ス會社ハ本法施行後六月以内ニ其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス

第七條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ニ掲グル者ニ適用セズ

郵便貯金法中改正法律案
郵便貯金法中左ノ通改正ス
第三條第一項中「十錢」ヲ「五十錢」ニ、「二千圓」ヲ「三千圓」ニ改ム

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
○國務大臣(村田省藏君登壇)
マシタ東亞海運株式會社法案ノ提出理由ヲ御說明致シマス

大東亞共榮圈確立ノ目的達成ノ爲ニハ、海上交通網ノ整備擴充ヲ圖ルコトガ、不可缺ノ條件デアアルコトハ申スルモノナク、アリマス、殊ニ支那ニ於ケル我が航權ヲ擴充強化致シマスコトハ、事變處理ノ基礎的施設トシテ、國防上ヨリ見マシテモ、經濟上ヨリ見マシテモ、焦眉ノ急務ト認メラレ

マスノデ、政府ハ曩ニ東亞海運株式會社ヲ設立セシメマシテ、對支海運經營ノ中樞機關タラシメ、我が航權ノ確立ヲ期シタル次第デアリマス、併シナガラ同會社ヲシテ能ク時局ノ要請ニ應ヘ、其ノ使命ヲ全ウセシメンガ爲ニハ、同會社ヲ改組擴大シテ、眞ニ國策會社タルノ機能ヲ發揮セシムルコトガ、喫緊ノ要務デアアル信スルノデアリマス、仍テ茲ニ東亞海運株式會社ヲ制定シテ、諸種ノ特權ヲ付與スルト共ニ、一層政府ノ監督指導權ヲ強化致シマシテ、支那ノ中心トスル本邦航權ノ確立ヲ圖リ、日支經濟提携ノ促進ニ資セシメントスルモノデアリマス、何卒以上ノ趣意ヲ諒セラレマシ

テ、御審議ノ上速カニ御協賛アラシムコトヲ切望スル次第デアリマス(拍手)

次ニ議題トナリマシタ郵便貯金法中改正法律案ニ付キマシテ提案ノ趣旨ヲ御說明申上ゲマス

時局下財政經濟政策遂行ノ圓滑ヲ期シマス上ニ於テ、國民貯蓄ガ如何ニ重要ナル役割ヲ擔ツテ居ルカト云フコトハ、改メテ申スマデモナイ所デアリマス、政府ニ於キマシテハ、事變以來國民貯蓄ノ獎勵ニ付キ、凡ユル機關ヲ動員致シマシテ、預金ノ吸收增加ニ努メテ居ルノデアリマスガ、殊ニ郵便貯蓄ニ付キマシテハ、最も普遍的ナル國民貯蓄ノ實行機關トシテ、一段ト是ガ機能ノ發揚ニ努力ヲ拂ツテ居ル次第デアリマス

然ルニ御承知ノ如ク、現在郵便貯金ノ一人ノ預金額ハ最高二千圓マデニ制限セラレ、又其ノ最低額ハ十錢ト定メラレテ居ルノデアリマス、此ノ最高及最低ノ制限額ハ、最近ニ於ケル國民所得乃至貯蓄力ノ増進狀況カラ見マシテモ、又貯蓄獎勵上ノ必要カラ見マシテモ、低キニ失スルモノト認メラ

レマスノデ、最高制限額二千圓ヲ三千圓ニ、又最低預入額十錢ヲ五十錢ニ引上ゲマシテ、國民經濟ノ實情ニ即應セシメ、國民貯蓄ノ増進ヲ圖ルコトト致シタイト存ズル次第デアリマス、事變ノ長期化ニ伴ヒマシテ、國民貯蓄ノ獎勵ハ、一層之ヲ徹底強化スルノ必要ヲ痛感セラレルノデアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラシムコトヲ希望スル次第デアリマス(拍手)

○副議長(田子一民君) 各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 日程第十及第十一ノ兩案ヲ一括シテ議長指名二十七名ノ委員ニ付託サレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子一民君) 服部君ノ動議ニ御

異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認ママス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認ママス、仍テ日程第十二、昭和十二年法律第九十二號中改正法律案、日程第十三、商工會議所法第十四條ノ臨時特例ニ關スル法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長川島正次郎君

第十二 昭和十二年法律第九十二號中改正法律案(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件)(政府提出)

第十三 商工會議所法第十四條ノ臨時特例ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書
一 昭和十二年法律第九十二號中改正法律案(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件)(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月十日
委員長 川島正次郎

衆議院議長小山松壽殿
報告書
一 商工會議所法第十四條ノ臨時特例ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月十日 委員長 川島正次郎

衆議院議長 小山松壽殿

(川島正次郎君登壇)

○川島正次郎君 只今上程致サレマシタ昭和十二年法律第九十二號中改正法律案、及ビ商工會議所法第十四條ノ臨時特例ニ關スル法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス

昭和十二年法律第九十二號ハ、輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件デアリマシテ

(副議長退席、議長着席)

本法律ハ國家總動員法ト相並ンデ、戰時下ニ於ケル經濟統制法ノ變翼ヲ成スモノデアリマス、今回改正ノ要點ハ、罰則ヲ強化シテ「第一條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分又ハ其ノ命令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス」トアリマス、又「七年以下ノ懲役又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス」ト改メ、同時ニ本法ニ依ル命令ニ依リ統制ヲナス各種法人又ハ團體ノ役員、使用人ノ收賄及ビ之ニ對スル贈賄ヲ處罰スルノ規定ヲ新タニ設ケタノデアリマス

改正第一點ニ對スル質疑ハ、第一、嚴罰主義ハ果シテ統制經濟違反ヲ防遏スルコトガ出來ルカドウカ、寧ロ民心ヲ萎縮セシメ、生産減退等ノ惡影響ヲ招來スルニハアラザルカ、第二、經濟事犯ノ中ニハ惡意ナク却テ同情スベキモノガ少クナイノデアアル、公定價格違反ノ如キハ、取締上損ヲシテ而モ處罰セラレテ居ル事例ガ多クアル、是等ニ對シテ今後如何ナル方針ヲ以テ臨ムカト云フデアリマス、之ニ對スル政府ノ答辯ハ、今回ノ改正ハ嚴罰主義ヲ建前ニシテ改正デハナク、徒ラニ違反者ヲ嚴重ニ處罰スルコトヲ以テ、其ノ目的ヲ達シ得ラレナイト考ヘテ居ル、經濟統制法令ノ趣旨ヲ一般

國民ニ周知徹底セシメ、同時ニ經濟統制ノ眞ニ已ムヲ得ザル事情ヲ十分ニ自覺セシムル必要ガアリ、商工、司法、内務各省間ニ於テ連絡ヲ密ニシ、此ノ點ニ留意ヲ致シテ居ルノデアアル、極メテ惡質又ハ重大ナ事犯ニ付テハ之ヲ嚴ニ罰シ、所謂一罰百戒ノ實ヲ擧ゲントスルモノデアアル、即チ輕微ナルモノニ付テハ、徒ラニ之ヲ檢舉スルコトヲ避クル方針デアツテ、檢事總長ヨリ檢事正ニ對シテ、經濟檢察ヲ行フニ當リテハ、事犯ノ處理ニ付キ特ニ慎重ニ考慮シ、常ニ能ク其ノ罪狀ノ大小輕重ヲ判別シ、專ラ惡質ナル違反ノ糾彈ニ重點ヲ置キ、之ヲ嚴罰シテ一罰多戒ノ實ヲ擧ゲ、又其ノ初犯輕微ナルモノニ付テハ説諭戒告ヲ加ヘ、再犯ヲ戒メ、教ヘテ刑セザルノ方針ニ從フベキ旨ノ訓令ヲ發シテ居ル趣キノ答辯ガアリマシタ

又改正第二ノ點ニ對スル質疑ハ、主要ナルモノハ、第一、本法ノ命令ニ依ラザル任意組合ノ役員、使用人ノ不正ニ對スル取締方針如何、第二、役員、使用人等ガ資材ノ配給等ニ當リ、自己若シクハ特別ナル者ノ便宜ヲ圖リ、不公平ノ處置アリタル場合ノ取締方針如何ト云フデアリマス、之ニ對シテ政府ハ、統制ヲ實施スルモノハ、將來成ベク法律ニ根據ヲ置ク法人格ヲ有スル團體ヲシテ行ハシムルコトトスル方針デアリ、又役員、使用人ノ不公平ナル處置ニ對シテハ、嚴ニ行政上ノ監督ヲナス方針ナル旨ノ答辯ガアリマシタ

議案第二、商工會議所法第十四條ノ臨時特例ニ關スル法律案ハ、昨年納稅制度ノ改正ニ依リマシテ、選舉資格ヲ喪失スル者ガアリ、之ヲ救済スル過渡ノ規定デアリマシテ、特ニ注意スベキ質問應答ハ委員會ニ於テハアリマセヌデシタ

右二案ヲ一括致シマシテ討論ニ付シ、採決ノ結果、滿場一致可決致シマシタ、以上御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部時市君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

昭和十二年法律第九十二號中改正法律案(輸入品等)臨時措置ニ關スル法律案

第二讀會(確定議案)

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、兩案共委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)日程第十四、健康保險法中改正法律案、第一讀會ヲ續ク開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス

委員長野田俊作君

第十四 健康保險法中改正法律案

(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一健康保險法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月十日

委員長 野田 俊作

衆議院議長 小山松壽殿

(野田俊作君登壇)

○野田俊作君 只今議題ニナリマシタ健康保險法中改正法律案ノ委員會ニ於ケル審議ノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス

此ノ改正案ハ頗ル簡單デアリマシテ、現行法ノ第十三條ニ於ケル強制被保險者ノ範圍ガ、工場、鑛山、陸上交通、運輸等ニ從事スル勞働者ニ限ラレテ居リマス、更ニ貨物積卸事業、即チ港灣ニ於ケル沖仲仕等、及ビ水平區域ヲ航行スル小船舶ニ依ル運送ノ事業等ニ擴張セントスルノデアリマス、此ノ改正案ニ付テ約十五萬人ガ新タニ健康保險法ノ適用ヲ受ケルコトニ相成ルノデアリマス、委員會ハ會議ヲ開クコトニ回健康保險法全部ニ互ツテ、有益ニシテ專門的ナル質疑應答ガ熱心ニ重ネラレマシタガ總テ速記録ニ讓ツテ省略致シタイト存ジマス

唯一ツ御紹介致シタイノハ委員會中ノ專門的知識ヲ有セラレル諸君カラ、現下藥品ガ頗ル品不足デアアル、配給ガ圓滑ヲ缺イテ、且ツ藥價ガ大幅ニ度々引上ゲラレルコトハ、健康保險醫療上ニ於テモ、洵ニ憂慮ベキ狀態デアルト、實例ヲ舉ゲテ熱心ニ警告セラレマシタニ對シテ、厚生省ノ當局ハ、輸入品ノ一部ハ已ムヲ得ナイガ、國內生産品ニ對シテハ、數量、配給額又價格ニ對シテ、十分對策ヲ講ジテ努力シテ居ルト云フ答辯ガアリマシタ、委員清水留三郎君カラ、本案ニ對シテ討論ヲ省略シテ、直チニ採決セントラ望ムトノ動議ガ出マシテ、滿場一致可決セラレマシタ、右御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

健康保險法中改正法律案

第二讀會(確定議)

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ(拍手)

○服部崎市君 議事日程追加ノ緊急勸議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際政府提出、國稅徵收法中改正法律案及ビ關稅法中改正法律案ノ兩案ヲ一括議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ勸議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ 國稅徵收法中改正法律案、關稅法中改正法律案右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス 委員長倉元要一君

國稅徵收法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

關稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 國稅徵收法中改正法律案(政府提出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月十二日

委員長 倉元 要一
衆議院議長 小山松壽殿

報告書

一 關稅法中改正法律案(政府提出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月十二日

委員長 倉元 要一
衆議院議長 小山松壽殿

倉元要一君登壇

○倉元要一君 只今議題ト相成リマシタ國稅徵收法中改正法律案及ビ關稅法中改正法律案ニ關シマスル委員會ノ審議ノ經過ニ付テ御報告致シマス
本委員會ハ二月ノ八日及ビ十二日ノ兩日ニ互リマシテ開催シタノデアリマス、先ヅ政府ヨリ今回ノ改正ノ理由ニ付テ詳細ノ説明ヲ承リマシタ、即チ稅務署ニ於テ滞納處分ノ結果差押ヘタル物件等ノ處分ニ付キマシテハ、現在國稅徵收法ノ規定ニ依リマシテ、原則トシテ公賣ノ方法ニ依ツテ賣却スルコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、又關稅法ニ依ツテ收容致シマシタ所ノ輸出入貨物ノ處分ニ付テモ、關稅法ノ規定ニ依リマシテ、公賣スルコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、然ルニ是等ノ物件ノ處分方法ヲ公賣ノ方法ニ限ツテ置クコトハ、國家總動員法ニ基ク價格統制令、又ハ輸出用品等ニ關スル臨時措置法ニ基ク物資配給統制規則等ノ運用ニ當ツテ、例ヘバ差押物件等、又ハ收容貨物ガ公定價格ヲ超ユル價格ヲ以テ入札セラレタリ、又ハ物資配給上好マシカラヌ方面ニ其ノ物資ガ流出スル虞ガアツテ、行政上統一ヲ圖ル上ニ種々不都合ガ生ズルノデアリマス、ソコデ國稅徵收法ニ依ル差押物件等、竝ニ關稅法ニ依ル收容貨物ノ處分ニ付テハ、必ズシモ公賣ニ依ラズ、公益

上必要アル場合ニハ、隨意契約ヲ以テ公賣ニ代ヘ得ル途ヲ開ク要ガアルト認メマシテ、ソレノ此ノ關係ノ法律ヲ改正スル旨ノ説明ガアツタノデアリマス

之ニ對シマシテ委員諸君ヨリ質問ガゴザイマシタ、其ノ質問ノ要旨ニ付テハ二御紹介申上ゲマス、官廳ガ物件ヲ購入スル場合ニ、競争入札ノ方法ニ依ツテ、公定價格ノ二分ノ一以下ノ價格ヲ以テ平氣デ之ヲ買入ラシテ居ルガ、是ハ產業ヲ破壊ニ導クモノデハナイカ、斯ウ云フ趣旨ノ質問ガアツタノデアリマス、政府ハ之ニ對シマシテ、御尤モノ質問ト存ジマス、色々其ノ省々ノ長イ間ノ歴史モアルコトデアリマスガ、價格政策トノ權衡按配ト云フコトニ付テハ相當心配ヲ致シテ居リマス、是ガ解決ニ付キマシテハ、十分ニ研究考慮スル旨ノ答辯ガアツタノデアリマス

斯クシテ質問ハ終了致シマシテ、討論採決ニ入ツタノデゴザイマスルガ、宮本雄一郎君ヨリ討論ヲ用ヒズシテ原案ニ贊成ノ動議ガ出タノデアリマス、之ヲ採決致シマシタ所、滿場一致原案ノ通りニ可決致シタ次第デアリマス、右御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○服部崎市君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

第二讀會(確定議)

關稅法中改正法律案 第二讀會(確定議)

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、兩案トモ委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ(拍手)

○服部崎市君 議事日程追加ノ緊急勸議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際政府提出、關東局、臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ノ各特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ關スル法律案、木炭需給調節特別會計法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス 委員長松田正一君

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ 關東局、臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ノ各特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ關スル法律案、木炭需給調節特別會計法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

關東局、臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ノ各特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ關スル法律案、木炭需給調節特別會計法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 關東局、臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ノ各特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ關スル經費等ニ關スル法律案(政府提出)

委員長 松田 正一

報告書

一 木炭需給調節特別會計法中改正法律案(政府提出)

委員長 松田 正一

衆議院議長 小山松壽殿

○松田正一君 只今議題トナリマシタ關東局、臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ノ各特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ關スル經費等ニ關スル法律案、及木炭需給調節特別會計法中改正法律案ノ委員會ニ於キマシテノ經過並ニ結果ニ付テ御報告ヲ申上ゲマス

關東局、臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ノ各特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ關スル經費等ニ關スル法律案、及木炭需給調節特別會計法中改正法律案ノ委員會ニ於キマシテノ經過並ニ結果ニ付テ御報告ヲ申上ゲマス

ニ依ツテ正式ナ手續ニ依ラントスルモノデアリマス、案查ニ當リマシテ、委員ヨリ色々御質問ガアリマシテ、此ノ簡易生命保險ハ大衆ノ生活ヲ或ル程度マデ保障スベキモノデアルカラ、千圓カラ千二百圓マデ契約高ノ金額ヲ引上ゲテハドウカト云フヤウナ意味ノ御質問モアリ、其ノ他委員側ヨリ色々御質問ガアリマシタガ、政府ハ誠意ヲ以テ之ニ答ヘマシタ、詳シイコトハ速記録ニ依ツテ御覽ヲ願ヒマス

ソレカラ木炭需給調節特別會計法中改正法律案デアリマスルガ、是ハ時節柄木炭ニ關スル問題ガ輻湊シテ居リマスノデ、其ノ内容ヲ申上ゲマスルト、現下ノ木炭需給ノ事情ニ鑑ミマシテ、木炭需給調節ノ特別會計ノ運營ヲ滑カニセンガ爲ニ、此ノ法律案ガ提出サレタノデアリマシテ、從來ハ同法ノ第三條ニ借入金七百五十萬圓ニ増額ヲ致シタイト云フ法律案デアリマス、委員會ハ是ガ審查ニ當リマシテ、委員側ヨリ色々熱心ナル御質問ガアツタノデアリマスガ、政府モ之ニ對シテ熱意ヲ籠メテ御答辯ガアリマシタ、其ノ一、二ヲ申上ゲマスルト、現在木炭自動車ガ走ツテ居ルガ、アノ木炭自動車ヲ將來段々殖ヤシテ行ク積リカ、又アノ木炭自動車ノ代用燃料ヲ、木炭ノミニ依ツテ將來ハヤルノカ、何カ外ニ代用品ヲ使用スル方法ヲ考ヘテ居ルカト云フヤウナコト、又家庭用ノ木炭ヲ節約スル爲ニ、炭團ノ製造ヲナシテ、之ヲ配給シテハドウカト云フヤウナ意味ノ御質問、ソレカラ此ノ特別會計ガ最初出來マシテカラ圓滑ヲ缺イテ居ツタヤウニ思フガ、現在ハドウナツテ居ルカト云フコトニ付テ、詳シイ御質問ガアツタノデアリマス、政府ハ此ノ質問ニ對シ、木炭自動車ノ燃料ハ、今デハ木炭ノミニ依ツテ居ルケレドモ、將來「コーライト」「カーバイド」及ビ無煙

炭、硬化炭等ニ依ツテ代用燃料ヲ使ヒタイト思フ、木炭自動車ノ數ハ是ヨリ以上ニ餘リ殖ヤサナイ考ヘデアルト云フ意味ノ御答辯ガアリ、其ノ他十五年度ハ極メテ窮屈デアツタガ爲ニ、此ノ特別會計ノ運營ニ遺憾ノ點モアツタガ、昭和十六年度ニ於テハ、三億貫以上ノ木炭ヲ政府ガ買上ゲマシテ、配給ニ圓滑ナル方法ヲ講ジタイト思フ、ソレガ爲ニ七百五十萬圓ニ増額ヲシテ貫フ法律案デアルト云フ意味ノ答辯ガアリマシタ、其ノ他本年ハ暖カカツタカラ、木炭ガ餘計ハ要ラナカツタガ、政府ハ昭和十六年度ニ於テハ、如何ナル事情ガアツテモ、此ノ配給ヲ圓滑ナラシムルヤウニ努力セヨト云フ御意見ガアリマシテ、兩案トモ質問ヲ打切りマシテ、本日ノ午後一時ヨリ開會致シマシタ委員會ニ於テ討論ニ入り、宇賀四郎君、中野寅吉君ヨリ、ソレノ原案ニ贊成ノ御意見ガアツテ、討論ハ終了致シマシタ、委員會ハ直チニ採決ニ入りマシタ所、全會一致ヲ以テ原案ヲ可決致シマシタ、以上簡單デアリマスガ御報告申上ゲマス(拍手)

關東局、臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ノ各特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ關スル經費等ニ關スル法律案 第二讀會(確定議) 木炭需給調節特別會計法中改正法律案 第二讀會(確定議)

○議長(小山松壽君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、兩案トモ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)是ニテ議事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日は是ニテ散會致シマス 午後二時十三分散會

○議長(小山松壽君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス